

News Release

2018年5月9日
株式会社日立製作所

**ハイエンドクラスの高性能・高信頼を実現する
ミッドレンジ・フラッシュストレージをグローバルに販売開始**
日立独自の新技术・サービスでコストパフォーマンスを最大 10 倍向上するとともに
IT システムの自律運用によりデータセンターを革新



「Hitachi Virtual Storage Platform F900」



「Hitachi Virtual Storage Platform G130」

株式会社日立製作所(執行役社長兼 CEO:東原 敏昭/以下、日立)は、このたび、ハイエンドクラスの高性能・高信頼を実現するミッドレンジ・フラッシュストレージをグローバルに販売開始します。「Hitachi Virtual Storage Platform(以下、VSP)ファミリー」のミッドレンジモデルを刷新し、従来ハイエンドモデル「VSP G1000」を上回る高性能な最上位モデル「VSP F900」をはじめとするフラッシュストレージ 10 モデルを提供します。本ストレージでは、日立独自のインテリジェントな重複排除・圧縮技術*1を活用した「データ容量最適化サービス」により、コストパフォーマンスを最大 10 倍向上*2します。また、IT システムの運用・管理を自律化するソフトウェアを強化し、ストレージの導入・運用時の設定に要する時間を最短 1/10*3に短縮します。

これらにより、日立は、データセンターや IT システムの革新を推進するデータセンターモダナイゼーション(Data Center Modernization*4)をさらに進め、お客さまの新規ビジネス創出や既存事業の拡大に貢献します。

*1 データのアクセスパターンに合わせて業務アプリケーションへの性能影響を極小化しつつ、データ容量を最適化し、削減処理のタイミングを自動的に変更することで、高性能かつ高効率なデータ容量最適化を行う技術。

*2 従来モデルである「Hitachi Unified Storage 150」(300GB SAS15K 回転 HDD 構成)と同等論理容量構成の今回新モデル「Hitachi Virtual Storage Platform G370」(1.9TB SSD 構成)を、容量削減率 1/4 における、データ処理能力と価格で比較し、評価したもの。

*3 顧客システムにおける本ソフトウェアの効果検証結果。従来手作業で行っていた設定操作の自動化による効果。効果は環境によって大きく異なります。

*4 日立の Data Center Modernization: 顧客が新規ビジネス創出などの新たな取り組みを可能にするため、既存システム運用の効率化や IT 投資の最適化を可能にする製品・ソフトウェア・サービスを提供し、顧客のデータセンターや既存システムを革新する取り組み。

近年、企業の情報システム部門には、既存の基幹業務システムのさらなる効率運用に加え、新規ビジネス創出に向けたデータ分析システムなどを迅速かつ柔軟に、適切なコストで導入・運用することなどが求められています。

日立は、今回、これらの多様化するニーズに応えるため、データセンターモダナイゼーションの取

り組みのもと、「VSP ファミリー」のミッドレンジモデルを刷新し、従来ハイエンドモデル「VSP G1000」を上回る高性能な最上位モデルを含めたフラッシュストレージを提供します。また、あわせて、このフラッシュストレージ導入によるデータ容量削減効果を保証する「データ容量最適化サービス」など新たなサービスの提供も開始します。

今後も、日立は、データセンターモダナイゼーションのもと、データセンターや既存システムの運用効率をさらに高めるストレージ製品・サービスとして、「VSP ファミリー」および関連ソフトウェア、サービスの強化を推進し、お客さまが運用する IT システム全体の IT 投資最適化を支援していきます。

■新製品・サービスの特長

1. ハイエンドクラスの高性能・高信頼を実現する新ミッドレンジ・フラッシュストレージを提供

フラッシュ媒体のアクセス性能を最大限に引き出すため、データアクセス処理などの機能を刷新した新アーキテクチャを搭載し、ハイエンドクラスからローエンドクラスまでをカバーする新ミッドレンジ・フラッシュストレージを提供します。最上位モデル「VSP F900」においては、従来のハイエンドモデルを上回る性能*5 を備え、あらゆる高負荷環境において安定した高性能を実現します。これにより、従来のハイエンドストレージからの置き換えを可能とします。また、高信頼性を提供するとともにローエンドクラス向けに機能などを最適化した「VSP G130」の提供により、フラッシュストレージ環境の導入を容易にします。

*5 従来モデル「VSP G1000」(コントローラシャーシ 1 台構成)との比較において、一秒間あたりの入出力処理数(IOPS:Input Output Per Second)が 14%向上。

2. コストパフォーマンス最大 10 倍向上を実現する新技術・サービスを提供

データのアクセスパターンに合わせて自動的にデータ処理のタイミング・方法を変更することで、性能・容量を最適化するインテリジェントな重複排除・圧縮技術により、コストパフォーマンス最大 10 倍向上を可能にしました。さらに、データ容量削減効果を事前に見積もり、移行後のフラッシュストレージの構成を提案すると同時に、そのデータ容量削減効果を保証する「データ容量最適化サービス」を新たに提供します。これにより、フラッシュストレージ移行時の重複排除・圧縮技術によるデータ容量削減効果に対するお客さまの不安を軽減します。

3. IT システム全体の自律運用・管理機能を強化

IT インフラ運用自動化ソフトウェア「Hitachi Automation Director」を強化し、アプリケーションからストレージまで、IT システム全体の運用・管理を自律化することで、より迅速なリソース割り当て、運用コストの削減、操作ミスの低減が可能となりました。

具体的には、国内で豊富な導入実績を持つ統合システム運用管理「JP1」との連携を可能にする「Automatic Storage Operation for JP1」の提供を開始します。本ソフトウェアの効果検証結果では、ストレージの導入・運用時の設定に要する時間を最短 1/10 に短縮しました。

■新製品・サービスの価格および提供開始時期

製品・サービス名	メニュー内容	価格(税別)	提供開始時期
Hitachi Virtual Storage Platform F900	・システム構成 ホストインタフェース:16Gbps FC×8ポート～ キャッシュ:1024GiB ストレージ基本ソフトウェア システム物理容量:約 2835GB～	4,132 万 6 千円～	5月9日
Hitachi Virtual Storage Platform F700	・システム構成 ホストインタフェース:16Gbps FC×8ポート～ キャッシュ:512GiB ストレージ基本ソフトウェア システム物理容量:約 2835GB～	2,626 万 2 千円～	
Hitachi Virtual Storage Platform F370	・システム構成 ホストインタフェース:16Gbps FC×8ポート～ キャッシュ:256GiB ストレージ基本ソフトウェア システム物理容量:約 1417GB～	1,197 万 4 千円～	
Hitachi Virtual Storage Platform F350	・システム構成 ホストインタフェース:16Gbps FC×8ポート～ キャッシュ:128GiB ストレージ基本ソフトウェア システム物理容量:約 1417GB～	948 万 4 千円～	
Hitachi Virtual Storage Platform G900	・システム構成 ホストインタフェース:16Gbps FC×8ポート～ キャッシュ:512GiB～ ストレージ基本ソフトウェア システム物理容量:約 864GB～	3,020 万 1 千円～	
Hitachi Virtual Storage Platform G700	・システム構成 ホストインタフェース:16Gbps FC×8ポート～ キャッシュ:256GiB～ ストレージ基本ソフトウェア システム物理容量:約 864GB～	1,759 万 3 千円～	
Hitachi Virtual Storage Platform G370	・システム構成 ホストインタフェース:16Gbps FC×8ポート～ キャッシュ:256GiB ストレージ基本ソフトウェア システム物理容量:約 864GB～	1,047 万 6 千円～	
Hitachi Virtual Storage Platform G350	・システム構成 ホストインタフェース:16Gbps FC×8ポート～ キャッシュ:128GiB ストレージ基本ソフトウェア システム物理容量:約 864GB～	657 万 6 千円～	

Hitachi Virtual Storage Platform G150	<ul style="list-style-type: none"> ・システム構成 ホストインタフェース:16Gbps FC×8ポート～ キャッシュ:64GiB ストレージ基本ソフトウェア システム物理容量:約 864GB～ 	218万8千円～	
Hitachi Virtual Storage Platform G130	<ul style="list-style-type: none"> ・システム構成 ホストインタフェース:16Gbps FC×4ポート～ キャッシュ:32GiB ストレージ基本ソフトウェア システム物理容量:約 864GB～ 	134万8千円～	6月29日
データ容量最適化サービス	データ容量削減率事前評価、構成提案	個別見積	5月9日
Automatic Storage Operation for JP1	ストレージ運用の自動化コンテンツ	34万円～	7月31日

■日立ストレージソリューションのホームページ

<http://www.hitachi.co.jp/storage/>

■他社商標注記

記載の会社名および製品名は、各社の商標もしくは登録商標です。

■お客さまお問い合わせ先

株式会社日立製作所 サービス&プラットフォームビジネスユニット ITプロダクツ統括本部
お問い合わせフォーム:<http://www.hitachi.co.jp/it-pf/inq/NR/>

以上

インテリジェントな重複排除・圧縮を実現する「インライン/ポストプロセス重複排除選択技術」

「Hitachi Virtual Storage Platform ファミリー」の新ミッドレンジ・フラッシュストレージにおいて、データの重複排除・圧縮技術を強化し、データ格納容量とデータへのアクセス性能を最適化する「インライン/ポストプロセス重複排除選択技術」を搭載しました。

1. 重複排除・圧縮技術とその課題

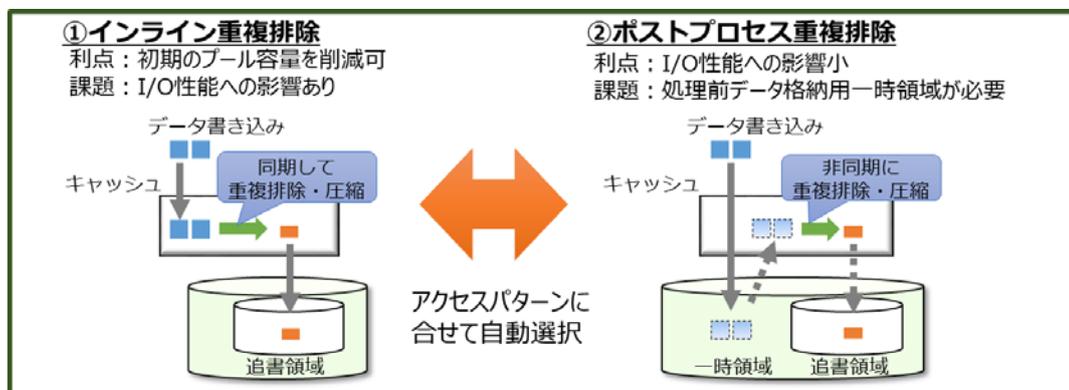
重複排除とは、ストレージ装置に格納されたデータから重複部分を検出し、その重複部分のデータの格納先を集約することで、消費される記憶容量を削減する技術です。データをより小さな容量に変換する圧縮や重複排除では、データの誤削除や破壊を防止するため、処理の実施前後にデータ比較によるチェックが必要であり、データアクセス速度の低下が課題となっています。

2. インテリジェントな重複排除・圧縮技術の提供

今回、データのアクセスパターンに合わせ、インライン重複排除とポストプロセス重複排除の二つの方式を自動的に選択し、データ格納容量の削減とデータへの高速アクセスを両立する「インライン/ポストプロセス重複排除選択技術」を提供します。

- インライン重複排除方式の課題: データ受信時に重複排除処理を行う方式。データ受信ごとにチェックを実施するため、データアクセス速度が低下しやすい。
- ポストプロセス重複排除方式の課題: データを記憶媒体に格納した後、負荷の低い時間帯に重複排除処理を行う方式。重複排除可能なデータであっても、一旦記録媒体にデータを格納するため、データと同じ容量の記録領域を一時的に消費する。

今回提供するインライン/ポストプロセス重複排除選択技術では、例えば、重複排除が効きやすい初期化やコピー処理のような連続したデータ書き込み操作が発生するような場合には、インライン重複排除方式を選択し、データ格納容量削減を優先します。一方、重複排除が効きにくく、データベースのように高頻度のランダムアクセスが発生するような場合には、ポストプロセス重複排除方式を選択してアクセス速度を優先します。



本技術をフラッシュストレージに適用することで、フラッシュ媒体の利用効率を高めるとともに、高速性が求められるシステムを構築することが可能となります。

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
